

第1回 テーマ研修

研修テーマ

学習者主体の授業による自ら学ぶ児童の育成
～子供の事実を基にした省察を通して～

運営テーマ

指導観・研修観の転換をとおした、
同僚性・ウェルビーイングを高める校内研修の在り方

【日時】 令和8年 4月 6日(月) 14:00～15:00

【場所】 理科室

【内容】

- | | |
|--------------------------------------|-----------------|
| I R7 沖永良部秋季教育研究大会
第2回校種別運営委員会資料から | 14:00～15:05(5) |
| II 研修の方向性について | 14:05～14:15(10) |
| III 学習者主体の授業について | 14:15～14:20(5) |
| IV 研修の進め方について | 14:20～14:35(15) |
| V 共通実践事項・個人のゴールの設定 | 14:35～14:50(15) |
| VI 令和8年度 テーマ研修計画 | 14:50～14:55(5) |
| VII 校長指導 | 14:55～15:00(5) |

【準備する物】

- ・ R7 テーマ研修資料
- ・ 筆記用具
- ・ タブレット(当日資料配布を行う予定です)

参考資料

- 学びの羅針盤(R8.3月)
- 南北600キロの教育～へき地・複式教育の手引き～
- 令和7年度 短期研修資料「研修観を転換し、校内研修を充実!校内研修マインドチェンジ講座」(高谷先生)

I R7 令和7年度沖永良部秋季教育研究大会 第2回校種別運営委員会資料から

研究主題：学習者主体の授業による自ら学ぶ児童の育成～子供の事実を基にした省察を通して～

1 研究主題設定の理由

学力定着の原点である授業の質を向上させるために、1単位時間での学びやつまづきを児童の言動や変容から把握する方法を探る。そのために、研究授業では児童の姿を詳細に観察し、授業研究では、児童が「どう学んでいたか」「何に困っていたか」等を分析することで、事前の手立てを検証し、以後の手立てに反映させる。それらを通じて、授業者の何を変えることで児童の学びがどう変化するかを追求し、1単位時間ごとに完結する確実な学びを目指す。

2 研究の内容

児童が主体的に学ぶ授業をどう実現するか考える際に、「学習者は本来主体的に働いている」と考え、学習者がいつどのように主体性を発揮しているかを観察し学ぶ。そして、授業参観・授業研究が「みえる力」を鍛える場と考え、各担任が授業を提供し、全授業に対して授業研究を行う。

3 研究の実際

(1) 講話の内容

「行動分析」が専門の鹿児島大学肥後教授と「教師の挑戦と成長を支える研修・校園研究の開発」が専門の鹿児島大学高谷准教授に講話をしていただくことで、研究内容に関する知見を深めた。

月	日	講話内容	講師
4	22	子ども「意図」・自分の「つもり」に惑わされないために ～行動分析で大人—子ども間のやり取りを診る～	肥後教授
5	13	教師の成長・発達の特徴と日々の実践の中での学び	高谷准教授
11	4	子どもを「みる」ことの難しさと「みる」工夫	高谷准教授

(2) 授業研究

全担任・専科が授業を提供し、研究授業と授業研究を行った。全参観者が、あらかじめ指定した一人の児童の言動に着目した。授業研究時に参観者同士の「見取り方の違い」を互いに実感することで多面的・多角的に児童を理解する授業研究を行った。

【授業研究の流れ】

- ① 観察した「事実」を報告し合う。(タイミング・内容・条件)
- ② 各々の「みえた」事柄からどんな意味が見出されるかを意見交流する。
- ③ 「学習者主体」「自ら学ぶ児童」等を目指すために、どのような手立てが効果的を考える。
- ④ 明日からの自身の挑戦内容を具体化する。(何を変えることで子供の学びがどう変化するか)
- ⑤ 校長指導

(3) 実践記録

「自身の授業実践を振り返ることで教師も成長する」と捉え、担任・専科7/9人が実践記録をまとめ、提出した。

4 研究のまとめ

(1) 成果

- ア 各学期末の学校評価で、児童・保護者ともに授業に関する項目の評価が向上した。
児童3.1(+0.2pt)，保護者3.2(+0.2pt)，各4段階評価
- イ 全教員が研究授業を実施し、授業を通じた指導法改善に努めた。

(2) 課題

- ア 対外的な学力調査で、顕著な改善・向上が見られなかった。
R7鹿児島学力・学習状況調査(速報値 平均点/合計点)
国語10.09/18，社会9.42/18，算数4.92/15，理科12.25/21
- イ 児童の変容で成果を検証した反省や分析が、以後の具体的な授業改善に十分に反映できていない。

II 研修の方向性について

1 今、私たち教員に求められていることとは

子供たちを取り巻く社会は大きく変化しています。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じて「主体的で対話的で深い学び」＝「学習者主体の学び」を実現することが、子供たちだけではなく、「新たな教員の学びの姿」として教員にも求められています。

子供の学びと教員の学びは「相似形」ともいわれています。「学ぶ」ことを楽しいと思える教員と一緒にいてこそ、子供たちの学びは豊かになる、幸せになると信じています。

令和8年度に向けての構想

・ 学習者主体の授業づくりを深める。

- ・ ガイド学習の進め方の知見を深める。
- ・ 複式指導の学級経営や授業の進め方の知見を深める。



☆ **ガイド学習・複式指導を進めるうえで、主体的に学ぶ児童の育成が必須。**

☆ 主体的に学ぶ児童の育成を進めるうえで、児童を理解し、委ねる場面をつくる必要がある。



★ 教師の「見取る力」の向上がカギとなる。

★ そのために、子供の事実を基にした省察を続ける

※ ガイド学習・複式学習については一般研修として実施し、テーマ研修に活かしていく。

・ **令和8年度沖永良部秋季教育研究大会 大研究テーマ** ※令和7年度から継続

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の在り方



R8年度国立国語研究所との連携協力校として、計画的に研究を進める。

研究テーマ(令和8年度)

学習者主体の授業による自ら学ぶ児童の育成

～子供の事実を基にした省察を通して～

2 これからの研修の在り方

これまでの指導観や研修観を今一度見直し、令和の学校教育の在り方を考えながら、研修の充実を図るとともに、本校の学校教育目標やめざす子供像を達成させるために、教師の同僚性やウェルビーイング(自己肯定感・幸福度など)を高めることをめざす研修を全職員で推進する。

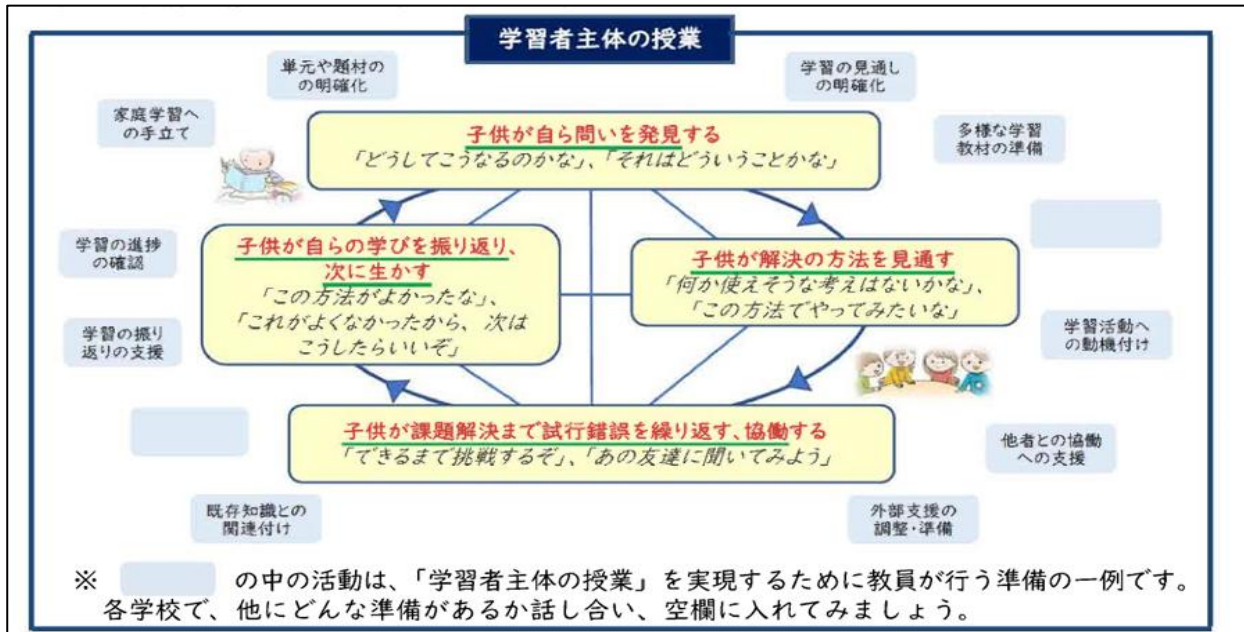
運営テーマ(令和8年度)

指導観・研修観の転換をとおした、
同僚性・ウェルビーイングを高める校内研修の在り方

Ⅲ 学習者主体の授業について

Ⅰ 「学習者主体の授業」の必要性～主体的・対話的で深い学びを実現するために～

(1) 「学習者主体の授業」とは？



授業

- 子供それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業
- 子供が解決の方法を自分なりに選択・判断する授業
- 子供が自分の学びを振り返り、次に生かしていこうとする授業

子供の姿

- 意図をもって、主体的に課題に取り組む姿
- 一人一人が自分の課題解決に向けて、試行錯誤を繰り返し、学びを調整する姿
- 協働してものや考えを創り出す姿

教員の姿

- 「思考力、判断力、表現力等」といった「見えにくい学力」や「学びに向かう力、人間性等」といった「見えない学力」も大切にする姿
- 子供たちを信じ、可能な限り学習を委ねる姿
- 一人一人のよさに着目し、そのよさを伸ばそうとする姿

2 「学習者主体の授業」を実現するために、どんな研修が必要か？

子供の学びと教員の学びは相似形あることから、「学習者主体の授業」を実現するための研修も、「研修者（教員）」が主体となって「学習者主体」の視点を重視した授業研究を中心とした研修が求められる。

そのために、

- 1 子供の学びの姿（事実）からスタートする。
- 2 子供の学びの姿（事実）の解釈について交流する。
- 3 授業における目指す子供像に迫れているかどうかを検証する。
- 4 共通実践事項を検討し、実践する。

IV 研修の進め方について

話し合いのルール

① 互いの価値観や経験、思いを聞き合う。

共感的に聞きながら、印象に残った言葉を伝え、疑問に思ったことは相手に「問い」として返す。

② 互いの「違い」を楽しむ

相手の意見を否定したり、相手の思いに「べき」論で返したりせず、違いがあることがあることを当然として、違いの中身を楽しみながら協議する。

→自分と違う視点を知ることは、自分の学びにつながる。

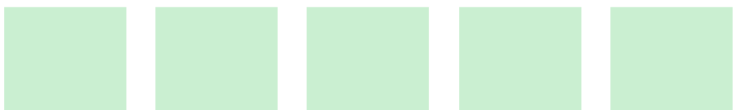
③ サポートできることを大切にする。

自分の学びを進めるだけでなく、共に学びを創る一員として、自分ができるサポートを見つけながら協議する。

①理想とする（理想としたい）研修はどんなものだろうか？



②そのような研修へ変わっていく（近づいていく）ために必要な要素は何だろうか？



例) 前向きな職員の意識

研修への主体性

研修を自分で進める学び方

全員体制での研修・・

③理想とする研修から見たとき、今の自校の課題は何だろうか？



* ①から順番に思考と対話をしながら進めていきましょう。

① 理想とする研修はどんなものだろうか？

② そのような研修へ変わっていくために必要な要素はなんだろうか？

③ 理想とする研修から見たとき、今の自校の課題は何だろう。

④ どの課題とどの要素が関連しているだろうか？

⑤ 課題を買い蹴るするためにどんな工夫ができるだろうか？

V 共通実践事項・個人のゴールの設定

I 共通実践事項

(1) 目指す児童の姿



(2) 「学習者主体」の手立て

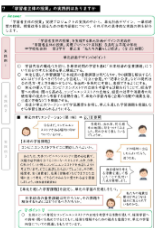


2 個人のゴールの設定

4・5月 学習者主体の授業による自ら学ぶ児童の育成
～子供の事実を基にした省察を通して～

個人内テーマ
例) 学習者主体・複式教育・ガイド学習・学習規律・環境設定・・・
→ 児童に委ねる時間を25分確保する。ガイド学習を取り入れる。

実践・手立て・調べたことなど



学習課題の工夫
単元構成の工夫
による学習意欲・
学習者主体の実現

成果

課題

赤のシートに、個人内ゴールを設定しましょう。

自分が興味を持ったことやさらにレベルアップしたいことなど、主体的に取り組める課題を見つけましょう。



ガイドの育成の仕方やガイド学習の在り方について理解し、実践する。

VI 令和8年度 テーマ研修計画 4月6日修正

月	日・曜日	時間	研修内容	担当
4月	6(月)	90	<input type="checkbox"/> 一般研修(ICT) <input type="checkbox"/> テーマ研修(年間計画, 共通実践事項の検討)	教育方法・研修係
	10(金)	S	○ 食物アレルギー対応(情報共有・エピペン講習含む)	保健部
	21(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(学習者主体の授業づくり・指導案検討6月30日)	研修係・授業者
5月	8(金)	S	○ 服務に関する研修①	下学年部
	19(火)	L	○ 水難救助(心肺蘇生法・AED講習) ※消防へ依頼	保健部
	29(金)	S	○ 学力向上に関する研修(R8全国学調に出題された単元調べ)	学力向上推進係
6月	2(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(授業研究①:事実を見取り,手立てを考える)	研修係
	12(金)	講座	○ 人権同和教育① ※沖同教基礎講座へ参加	
	16(火)	レ	<input type="checkbox"/> テーマ研修(授業研究①:事実を見取り,手立てを考える)	研修係
	30(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(授業研究②:事実を見取り,手立てを考える)	研修係
7月	10(金)	S	○ 服務に関する研修②	上学年部
	14(火)	L	○ 特別支援教育(発達障害の特性理解・指導方法)	研修係
8月	19(水)	L	○ NRT分析,全国学力・学習状況調査分析(成果と課題,その要因の分析,改善策)	研修係
		M	<input type="checkbox"/> テーマ研修(講話:高谷准教授) ガイド学習(複式学習)に関する研修※短期研修の報告含む	教育相談係
		講演	○ 人権同和教育② ※両町人権同和教育研究会へ参加	
	21(金)	M	○ 体力・運動能力調査の結果分析	体育指導係
		M	○ アンガーマネジメント・コミュニケーション能力向上に関する研修	学力向上係
	未定		○ フィールドワーク 施設編	
	未定		○ フィールドワーク 歴史編 (和泊町歴史民俗資料館など)	
9月	1(火)	L	○ ICT研修に関する研修(Canva・生成AIの活用方法)	教育方法改善係
	15(火)	L	○ 生徒指導に関する研修(SOSの出し方教育)	生徒指導
10月	6(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(授業研究③:事実を見取り,手立てを考える)	研修係
	9(金)	S	<input type="checkbox"/> テーマ研修(秋研公開校の研修について)	研修係
	30(金)		<input type="checkbox"/> 沖永良部秋季教育研修大会(上城小)	
11月	6(金)	S	<input type="checkbox"/> テーマ研修(授業研究④:事実を見取り,手立てを考える)	研修係
	17(火)	L	○ 人権同和教育③	人権同和教育係
12月	1(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(授業研究⑤:事実を見取り,手立てを考える)	研修係
	11(金)	S	○ 服務に関する研修③	支援学級・専科・養教
	16(水)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(講話:高谷准教授)	研修係
1月	19(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(成果と課題・来年度に向けて)	研修係
2月	12(金)	S	<input type="checkbox"/> テーマ研修(研修アンケート結果・次年度研究内容・計画について)	研修係
	16(火)	L	○ 鹿児島学力・学習状況調査分析(成果と課題,その要因の分析,改善策)	学力向上係
3月	2(火)	L	<input type="checkbox"/> テーマ研修(全体研修:研修のまとめ,次年度計画)	研修係
	12(金)	S	○ 学力向上に関する研修(R8鹿児島学調に出題された単元調べ)	学力向上推進係
	16(火)	L	○ 複式指導に関する研修(模擬授業を通して授業設計を考える)	研修係

※ 「学調に出題された単元調べ」について(全国・鹿児島それぞれ1コマずつ)
教科書と教育課程にマーカーや朱書きをする。Web問題番号も。⇒R9教育課程に追記。

R8 一人一授業計画案

	月	日	曜日	校時	学年	教科	指導者
1	5~6						
2	6	2	火	5			
研修	6	2	火	L	授業研究① ※1と2の分		
3	6	30	火	5			
研修	6	30	火	L	授業研究② ※3の分。講師招聘		
4	9~10						
5	10	6	火	5			
研修	10	6	火	L	授業研究③ ※4と5の分		
6							
研修	11	6	金	S	授業研究④ ※6の分		
7	11						
8	12	1	火	5			
研修	12	1	火	L	授業研究⑤ ※7と8の分		

VII 校長指導

--